



日本語は官能的

にほんご かんのかんげき

デビット・ゾペティ

母国語でない日本語で小説を書いて、よく取材を受ける。大概、似たようなことを聞かれる。「やはり日本語は難しいでしょう?」、「日本語を習得するコツを教えてください」という類の質問だ。

その度、僕は首を傾げてしまう。聞く側が「日本語は極めて特殊な言語だから、その学習も特段に困難だろう」と思っているように感じられて仕方がない。もちろん、日本語には日本語ならではの特色は数多くあるが、世界のどの言語にもその言語特有のものがある。何も日本語だけが特別ではない。

外国語を学ぶ際に大事なものは、まさにそういう特徴と、いかに「接する」か、という「心構え」だと思ふ。日本語固有の文字表記、言い回し、微妙なニュアンスなどを至難の課題と思ふか、逆に「遊び心」でそれに取り組めるか、がポイントだろう。

日本語はこういう「遊び心」をそそられる面をたくさん持っている気がする。欧米の諸言語の習得に「頭脳的」な努力が求められているのに対して、日本語はとて「官能的」な言葉だ。人間の「感覚器官」、分かりやすく言えば、人間の「五感」に直接訴える要素が多いからだ。

例えば、僕は日本語の文字に「視覚的」な魅力を強く

感じる。水墨画に似た美しさがある。漢字は難しいと言われるが、その構成が分かってくると、まるでパズルを組み立てるような楽しさが味わえる

漢字はいわゆる「表意文字」。一つの漢字で、ある概念を表すことができる。僕は今でも原稿用紙と万年筆を使って書いているが、「音」を表すひらがなやカタカナと、そんな特殊性を持った漢字で升目を埋めて、「絵」を「文章」に変えていく作業に「触感的」な喜びを覚えたりする。

さらに、日本語には擬音語と擬態語がある。「川が／さらさらと／流れ、春風が／そよそよと／吹く」、「男性は／ふらふらと／歩き、女性が／ゆったりと／座る」という風に、客観的な事柄や感覚的な印象を「音として」表現する言葉だ。「聴覚」と「視覚」が刺激され、想像力は自由にイメージを作る。

日本語は曖昧な言語だとよく言われる。主語を必要としなかったり、言葉を平気で省いたり、動詞の活用も極端に単純だったりして、英語やドイツ語などに比べて、明確さに欠けている。遠回しな言い方も多ければ、敢えて言葉にしくなくても意志が伝わる「あうんの呼吸」という妙な「話術」もある。お辞儀をはじめ、「体」で何かを表現する場合も多い。

机上の勉強だけでは絶対にマスターできない言語だが、場数を踏んで、日本語世界の「官能性」に閃き、「遊び心」で接すれば、とても親しみ易い言葉だと思ふ。(小説家)

- 表紙エッセイ
日本語は官能的
デビット・ゾペティ (小説家)
- **海外日本語教育レポート 第3回** 3
JICA 人材協力センター (ハノイ) の日本語コース
JICA 長期専門家 (日本語コース) 柴原智代
- 国際交流基金設立 30 周年・関西国際センター開設 5 周年記念シンポジウム 6
「日本語と日本研究 ～日本を知るための日本語とは～」報告
関西国際センター総務課
- 写真で見る日本人の生活 **初・中級** 10
「おはよう」…朝起きてから
- 授業のヒント 12
かなの書き方の指導
- 新聞・雑誌から見る現代日本 第13回 **中・上級** (※本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。) 14
私の夫がノーベル賞?
- 本ばこ (新刊教材・図書紹介) 17
- 授業に役立つホームページ 第4回 20
であい
- 文法をやさしく 第4回 22
やりもらい (2)
- ニュース・編集部から 24

※今号では、「日本語・日本語教育を研究する」をお休みします。

※ は、読者が教えている生徒のレベルを示します。

読者アンケートへのご協力のお願い

いつも『日本語教育通信』をご愛読いただき、ありがとうございます。

このたび、諸般の事情から、読者アンケートを実施することとなり、協力依頼状とアンケート用紙を同封させていただきました。同アンケートの結果は、今後の『日本語教育通信』の配信方法や掲載内容を左右する重要な資料となりますので、なるべく多くの方々のご意見を集めたいと思っております。今回は、郵送やFAXだけでなく、e-mail などからの返信も可能となっておりますので、お忙しい中恐縮ですが、是非ご回答をお願いいたします。

募集期間：2003年2月1日～同年3月31日

使用言語：日本語もしくは英語

回答方法：同封の協力依頼状をご覧ください。

『日本語教育通信』編集担当より

表紙エッセイストプロフィール

デビット・ゾペティ

小説家。62年スイス生まれ。90年同志社大学卒。91年テレビ朝日に入社、報道の仕事に携わる。現在は執筆に専念。著書に「いちげんさん」(すばる文学賞)、「アレグリア」、「旅日記」(日本エッセイスト・クラブ賞)。



海外日本語教育レポート

第3回



JICA長期専門家（日本語コース）柴原智代

このコーナーでは、海外の日本語教育について広く情報を交換したり、お互いの交流をはかるために、各地域の新しい試みやコース運営などについて、関係者の方々に具体的に紹介していただきます。

JICA人材協力センター（ハノイ）の日本語コース

1. 人材協力（開発）センター¹設立の背景

市場経済への移行過程にあるアジアの国々で、市場経済を担う人材の育成と日本の「顔の見える協力」を進めるべく、2001年から各地に人材協力センターが設立された（現在5カ国6カ所²）。センター事業は国際協力事業団（以下、JICA）が主体であるが、国際交流基金（以下、基金）は、日本語教育専門家の派遣において協力関係にあり、2001年度はヴェトナム（ハノイ、ホーチミン）、ウズベキスタン（タシケント）、2002年度にはモンゴル（ウランバートル）、カザフスタン（アルマトイ）にそれぞれ1名、計5名が赴任した。人材協力センターは、ビジネス・日本語・交流事業の3部門を通して、日本と現地の双方向の関係作りを目指しており、ビジネスコースを中核としつつも、基金の文化会館、文化・日本語センター的な役割も担っている。

2. ヴィエトナム日本人材協力（ハノイ）センターの紹介

当センターの正式名称は、英語名で“Vietnam-Japan Human Resources Cooperation Center in Hanoi”（以下、VJCC-Hanoi）である。2002年3月にヴェトナム側協力機関である貿易大学キャンパス内に設立された（写真1、建物外観図）。無償資金協力（総工費約3億4,000万円）による施設建設とJICAのプロジェクト方式技術協力³を組み合わせて実現した。プロジェクト期間中は日本からの専門家4名（プロジェクトリーダー、調整員、ビジネスコースマネージャー、日本語コースマネージャー）の派遣、訪日研修（H13、14年度合計実績14名）、機材供与などの支援が行われる。事業費は約1,500万円⁴（H14年度実績）だが、今後徐々にセンターの自己収入（受講費等）で支出をまかない、5年後のプロジェクト終了時（2005年8月末）には、独立採算可能な形でヴェトナム側に引き渡される予定である。施設は3階建（1,517㎡）で、1階にはロビー、2階にはスタッフルームと図書室、3階には多目的ホール、セミナー室、コンピュータ室等がある。詳細設計は異なるもののセンターの機能は他国もほぼ同様である。

VJCC-Hanoiのビジネスコースは、将来的にはヴェトナム人による自主経営を目指しているが、現在は日本からのビジネス分野の専門家（1～2週間）による短期コースが中心である。交流事業は、日本人と学習者の交流会・日本料理・合気道など定期的な事業のほか、専門家派遣（写真2）によるスポーツ交流などが行われている。図書室には、日本語教育・日本研究・ビジネス関連書・雑誌・新聞約2,000点、ビデオや音声テープ、インターネットに接続できるコンピュータ10台、日本国際教育協会（AIEJ）提供の留学資料（日本の各大学の資料等）を有した留学コーナー等がある。これだけの日本関係資料をそろえた図書室はハノイでは他に類がなく、有料（年会費7US\$、学生半額）にもかかわらず、オープ



〈写真1〉建物外観図



〈写真2〉交流事業（スポーツ）



〈写真3〉図書室

ン4カ月(10月末)ですすでに400名近くの登録があり、一日100人もの利用があるため、多い日には利用を断らなければならない(写真3)。

筆者はVJCC-Hanoiに日本語コース専門家として、2001年9月にハノイに赴任し、「ニーズ調査/コースデザイン/講師の採用・育成/コース実施・評価」を行う日本語教育専門家として、また日本語コースを独立採算事業として軌道にのせる「マネージャー」として仕事をしている。

3.VJCC-Hanoiの日本語コースの紹介

ハノイには民間日本語学校が5校あり、未習者向け初級コースを中心に開講している。VJCC-Hanoiは基金の日本語センター同様中級クラスと教師支援に重点を置いている。初年度(H14年度)のコース設定はP.5の表の通りである。現在中級1・2の受講生は90%が大学生(日本語主専攻の2~4年生)であるが、裾野を広げるために今秋子供クラス(写真4)を開き、来年度は「社会人向けビジネス場面で役立つ中級クラス」のほか中学生・高校生クラスも検討している。



〈写真4〉子供クラス

中級1クラスは日本語能力試験(以下、日能試)3級問題で選抜試験を行い、70~90%の正答率の者を合格とした。中級1クラスの受講生の口頭能力は、ACTFL OPI⁶でほぼ中級の下~中級の中、中級2クラスは中級の中~中級の上と推定しており、中級1~2(総学習時間98時間)で上級レベルに引き上げたいと考えている。中級2終了時にプロチーブメントテスト⁷をして評価し、上級クラスへの進級を決定する。

中級1はトピックシラバス、中級2はトピック+スキルシラバスを用いている。例えば中級1の「旅行」トピックでは、『文化中級日本語II』⁸第2課や実物の旅行パンフレットを使用して日本の観光地に関する日本語を学習した後、ベトナムの観光地の紹介パンフレットをグループごとに作成する(写真5)。その後、観光会社と客に分かれ、作成したパンフレットを使ってロールプレイをした。大学での文法・読解重視の授業で正確さを身につけている学生だからこそ、このような運用力重視の授業が言語能力補強に結びつき、効果をもたらすと考えている。



〈写真5〉学習者作成観光パンフレット

筆者の調査では、日本語主専攻の大学であれば2年次でACTFL OPI中級の下~中級の中に達するものの、4年次になっても同レベルにとどまっている者が多い。これは読解力重視のため3、4年生は会話授業が減ること、中上級の運用力伸張そのものが難しい上に、その指導はnon-native教師には大きな課題だからだと思われる。学習者の中上級の運用力を伸ばし、同時にnon-native教師に指導スキルを向上してもらうため、VJCC-Hanoiでは中上級の運用力向上クラスが中核となっている。そのほか日能試の対策クラスを通して文法等知識の基礎固めも行っている。

教師研修は有料の常設コース、無料の教授法セミナーのほか、研究能力向上のための若手non-native教師対象の勉強会も始めた。また、ハノイには青年海外協力隊の日本語教師隊員⁹が1995年から活動を始めて現在6大学で7名が活躍中で、互いに協力関係にある。

4. 他の人材協力センターの活動

5カ国6カ所の人材協力センターの日本語コースを概観すると大きく2つに分けられる。

- ①高等教育機関での日本語教育も存在する一方で、すでに多くの民間日本語学校が存在している地域(ベトナム、モンゴル)では、中級コース・教師育成に重点を置く。
- ②高等教育機関での日本語教育は存在するものの、民間日本語学校はほとんどない地域(ラオス¹⁰、ウズベキスタン、カザフスタン)では、初級コースを核とする。

①の場合、民間との補完に配慮し、未習者に対する初級コースは開講せず、教師研修や指導のモデルとなるようなコースを実施する。モンゴル(村上吉文専門家、2002年4月モンゴル国立大学から異動)では、夏期映画クラス(日能試3級修了以上対象、「天空の城ラピュタ」使用)や実習を中心とした日本語教師研修コースを開講している。ハノイは先に述べた通りである。同じベトナムでもホーチミンの日本語教育は90年代から始まったため、中上級レベルの学習者や

2002/4-2003/4	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	時間・曜日	期間	回数・受講費
日本語教師養成 (初級指導法3カ月) 1クラス×20名													9:00-12:00 週1土曜	5/4-7/27	12回×3h=36h、 54万vnd
現職者日本語教師研修 (初級・中上級指導法3カ月) 1クラス×20名													14:00-17:00 週1土曜	5/4-8/3	12回×3h=36h、 60万vnd
総合日本語中級1 2クラス×20名													17:45-19:45 週2 (月水、火木)	5/23-8/29、 9/17-12/5	24回×2h=48h、 48万vnd
総合日本語中級2 1クラス×20名													17:45-19:45 週2 (火木)	9/17-12/5	24回×2h=48h、 48万vnd
日本語上級会話 1クラス×20名													17:45-19:45 週2	2003/02-	24回×2h=48h
ビジネス日本語 (中級) 2クラス×20名													17:45-19:45 週2	2003/02-	24回×2h=48h
能力試験対策 (3級) 1クラス×20名													9:30-11:30 週2 (月水)	9/4-11/25	24回×2h=48h、 45万vnd
能力試験対策 (2級) 2クラス×20名													①15:15-17:15 週2 (月水)、 ②18:00-20:00 週2 (月水)	9/4-11/25	24回×2h=48h、 57万vnd
子供日本語 (6-12歳) 2クラス×14名													9:00-10:30 週1土曜	10/19-1/4	12回×1.5h=18h、 18万vnd
現職日本語教師対象教授法セミナー (年2回×40-100人)													土曜 14:00-17:00	6/29、1月11日 (予定)	無料
VJCC日本語コース※のnewsletter発行 (年3回×全日本語教育機関約1,000部)														2、6、10月発行	無料

注) 10万vndは約800円

高等教育機関の教師の層がまだ薄い。その一方で、日系企業や日本人観光客はハノイの数倍存在するため、VJCCホームミン (平田好専門家、2001年11月赴任) では、初中級レベルを対象に仕事に直結した「日本人と働くためのコース (how to work with Japanese)」という短期集中コースを計画している。

②の場合は、多くの人に学習の機会を提供し、長期的にレベル向上を図るため初級コース (約10カ月) が核となる。ウズベキスタン (黒滝力専門家、2001年7月赴任) では43名、ラオス (JICE森戸規子専門家、2000年12月赴任) では141名の初級コース第一期生を今年度すでに修了させた。ラオス人日本語教師が国全体で数名しかいない中で、当コースの受講生の中から日本語教師が輩出されるものと期待される。カザフスタン (杉浦千里専門家、2002年5月赴任) では、初級、初中級、中級、上級、教師クラスの8クラス128名を対象に来年6月までの10カ月のコースが行われている。

- 1 国によっては人材開発センターという名称を使用しているが、本稿ではヴェトナムの名称、人材協力センターで統一する。
- 2 5カ国6カ所とは、ヴェトナム (ハノイ、ホームミン)、ラオス、ウズベキスタン、モンゴル、カザフスタンであり、ミャンマー、カンボジアでも同様の計画がある。但し、ラオスは基金ではなく日本国際協力センター (JICE) から日本語コース分野の専門家が派遣されている。
- 3 プロジェクト方式技術協力とは、専門家派遣、研修員受け入れ及び機材供与を組み合わせてプロジェクトとして実施する協力の方式である。
- 4 約1,500万円は日本側の負担 (政府開発援助、ODA) であり、ヴェトナム側は土地の提供や緑化整備、パソコン等一部の機材購入を負担している。
- 5 中等教育では日本語教育が行われていないため、主に高等教育機関 (大学) の教師を対象としている。大学機関は6校 (主専攻5、非専攻1)、学生総数は1,500-1,900人である。
- 6 アメリカ外国語教育協会が開発した面接法による外国語の口頭能力測定試験。
- 7 Proficiency testとAchievement testの要素を組み合わせたテスト方式。
- 8 著者・編集: 文化外国語専門学校日本語課程、発行: 凡人社、発行年: 1997年
- 9 JICAが実施する国の事業で、アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中近東、東欧の人々のために、自分の持っている技術や経験をいかしたいという意欲を持つ青年を派遣しており、活動職種は160種類に及ぶ。日本語教師もその一つで、受け入れ機関からは、日本語教授法の履修や日本語指導経験、大学卒業以上の学歴を求められている。
- 10 ラオスには民間日本語学校は3校あるものの高等教育機関がないため、広く一般に日本語を広めるのが優先課題であるとし、初級コースが中核となっている。そのほか、主要産業 (観光) 拡大目的としたガイドコース (現職で日本語既習)、ホテルコース (現職で日本語未習) などの短期集中コースもある。

国際交流基金設立30周年・関西国際センター開設5周年
こくさいこうりゅうききんせいりつしゅうねん かんさいこくさいかいせつしゅうねん
 記念シンポジウム
きねん

「日本語と日本研究

にほんご にほんけんきゅう

～日本を知るための日本語とは～」報告

にほん し にほんご ほうこく

関西国際センター総務課
かんさいこくさい そうむか

1. はじめに

国際交流基金関西国際センターは、日本語国際センター（さいたま市）に続く、国際交流基金では2番目の日本語教育施設として、平成9年に関西国際空港の対岸に開設されました。関西国際センターでは、諸外国の外交官や対日関係を担当する公務員、日本研究者や大学院生（人文・社会科学分野に限定）、図書館司書等を対象に、各人の職務や専門性を背景とした「専門日本語研修」、日本語の学習継続を奨励する目的で実施している「日本語学習奨励研修」、並びに「日本語能力試験」に関する業務を実施しています。

昨年、平成14年（2002年）は、国際交流基金設立30周年、関西国際センター開設5周年という記念の年でした。当センターではこの節目の年に「日本語と日本研究～日本を知るための日本語とは～」と題したシンポジウムを、11月1日（金）



に開催いたしました。

今回のシンポジウムは、関西国際センターで開催している、「研究者日本語研修」「大学院生日本語研修」に焦点を絞りました。パネリストとして、現在日本研究の第一線で活躍しておられる方々に、自身の日本語学習経験や現在の研究活動と日本語との関係などについて報告していただき、将来の日本研究者に対する日本語教育の在り方について議論していただきました。

当日は、小雨の降る悪天候の中、会場の定員を越える130名余りのお客様が足を運んで下さいました。ここに当日交わされました、議論の概要をご報告いたします。

2. 基調講演

シンポジウムの冒頭、日本研究者（民族学）と



して高名なボン大学日本文化研究所所長のヨーゼフ・クライナー教授に基調講演を行っていただきました。クライナー教授は、1961～63年に文部省留学生として滞日し、64年に奄美・沖縄の研究で、ウィーン大学より博士号を取得されました。その後、ウィーン大学教授を経て、1977年から現在に至るまでボン大学日本文化研究所所長を務められながら、ヨーロッパ日本研究協会会長やドイツ日本研究所(東京)初代所長などを歴任され、現在もご活躍中です。1987年にはその功績を称え、国際交流基金より「国際交流奨励賞」が贈られました。

講演は、先生の豊富な経験と知識を物語るように、国際交流基金の設立を契機としたヨーロッパ日本研究協会の創設、ヨーロッパにおける日本の変遷、日本語の「手段としての受容 (Instrumental Reception)」と「完結的受容 (Consummately Reception)」といった話題に始まり、小澤征爾氏(指揮者)、住谷一彦氏(社会思想史)などクライナー教授の学生時代にウィーンへ留学していた日本人留学生との交友、日本留学時のフィールドワークを通して日本語学習、現在のボン大学における日本語教育など、ユーモアを交えつつ多岐に渡る話を大変興味深く聞かせていただきました。

残念なことに、紙面の都合でここではその内容をご紹介しますが、全文を関西国際センターのホームページ (<http://www.jpfi.go.jp/j/kansai/>



ヨーゼフ・クライナー教授

index.html) に掲載いたしますので、是非そちらをご覧ください。

3. 報告とパネルディスカッション

クライナー教授の基調講演の後、4名の日本研究者の方々に、日本語の勉強を始められた当時のその国における日本語教育事情や専門分野の知識と語学力との関係、一次資料を取扱える日本語能力の重要性といった事に関し報告をしていただき、その報告を元に最後にパネルディスカッションをしていただきました。それぞれの専門分野は、美学、演劇、経済、政治と広範に渡りましたが、研究に使う日本語とその習得にまつわる問題について、客席からの質問も交えながら、非常に興味深い話を聞くことができました。

今回のシンポジウムを通して、一つ浮かび上がってきたのが、高等教育レベルにおける日本語教師がカバーすべき知識に関する問題です。学生の日本語学習に対する動機づけを高めるために、教師は「学生の専門分野に関する、入門書レベルの知識を身に付けておく必要がある」という意見と、「日本語教師が一人ですべてを抱え込むことは現実的ではなく、人的ネットワークを活用し、学生と専門家をつなぐ道を用意するなどの対処方法を考えるべきである」という意見が出されました。マクドゥガル教授からは、スタンフォード日本センターの日本語上級クラスにおける取り組みとして、「日本語教育と専門分野の基礎教育の両方が出来る人を非常勤講師として招いており、学生から好評を博している。しかし、そういう人を探し出すのは非常に難しい」との報告がありました。また、「日本語学習の一環として、専門分野の基礎知識を得るために適切な本のデータベースを国際交流基金が作成してはどうか」との提案もあり

ました。(因みに、関西国際センターの「研究者
日本語研修」では、昨年より関西地区の大学の先
生等に「研究アドバイザー」を委嘱し、研修生が
自分の研究を進めていくための支援体制作りを始
めました。)

専門教育を始めるのは、母語と目的語のどちら
がよいか、という論点については、言語によって
大きく状況が異なるという指摘がありました。英
語・フランス語・日本語などは、出版事情・専門
用語の訳語においても様々な研究分野の最先端の
情報がカバーされているが、話者の少ない言語を
母語とする人にとっては、比較的初期の専門教育
から目的語(日本研究の場合日本語)で行わざる
を得ない、というものです。また、「日本に留学
している学部レベルの学生を見ていると、一般的
に、大学という制度に慣れないまま日本語の習得
で苦しんでしまい専門を深めることが難しい状況
に陥っている、専門教育をある程度受けた後に留
学の方が語学の上達が早いのではないか」とい
う意見もありました。

今回のようなシンポジウムでよく話題となる
「日本特殊論」については、パネリストから「従
来の『日本特殊論』は神話に過ぎない」「従来、
安易にこれを唱える研究者が多かったが、正当な
反論を行う研究者が少なかった」「一次資料に基
づいて書かれた論文が少なく、研究者は日本語を
十分に習得した上で自ら調査・研究を行い、この
神話を覆していかなければならない」といった意
見が出されました。

シンポジウムの終盤、会場から「日本語を教え
る際、日本の文化・社会について、どのようなこ
とを教えておいた方がよいと思われますか？」と
いう質問がありましたが、二名のパネリストから

「日本は、非常に多元的で多様な文化を持ってい
るということを教えて欲しい」といった回答がな
されました。

4. 最後に

国際交流基金日本語国際センターの「日本語教
育機関調査(1998年)」によると、日本語学習機
関を教育段階別に「初等・中等教育機関(小学校
～高等学校)」「高等教育機関(高等専門学校・短
大～大学院)」「学校教育以外の機関(語学学校等)」
に分けた場合、学習者数が最も多いのは初等・中
等教育機関で、全体の約65%を占めています。し
かし、前回調査(1993年)からの学習者数の伸
び率を見ると、高等教育機関が最も大きく39.1%
(約46万人)と報告されています。

今回のシンポジウムでは、「日本特殊論」につ
いての議論もあり、そこでは日本研究者の責任が
問われるという場面がありました。各国で日本理
解を深めてもらうためには、研究者の「層の厚み」
は欠かすことの出来ない要素であり、また、日本
語学習者、日本に関心を持つ人々の裾野を広げる
意味でも、日本研究者の果たす役割は非常に大き
なものがあると言えます。その意味で、今回のシ
ンポジウムは、日本研究者を目指す方々への日本
語教育の重要性と難しさについて、再認識させる
ものとなりました。

最後になりましたが、基調講演をお願いしたク
ライナー先生、司会を務めていただいた大坪先生、
他五名の出席者の皆様、そして最後までお付き合
い下さった聴衆の皆様にご心から感謝申し上げます。

期 日	2002年（平成14年）11月1日（金） 10：30～17：00	
場 所	国際交流基金関西国際センター ホール	
プログラム	出席者氏名（敬称略）	所 属（専門）
基 調 講 演	ヨーゼフ・クライナー Josef Kreiner	ボン大学日本語研究所所長・教授（民族学・文化人類学）
	1940年オーストリアに生まれる。1964年ウィーン大学で博士号を取得。ウィーン大学日本語研究所所長（1971-76年）、ドイツ-日本研究所（東京）所長（1988-96年）を歴任。現在はボン大学日本文化研究所所長・教授を務める。村レベルの宗教と社会、第二次大戦後の近代化過程における価値観の変遷など、広く日本社会、日本文化の諸問題を対象にさまざまな研究に取り組み、数多くの業績をあげている。	
報告と討論 ※大坪氏は司会。 金専門員はコメント及び討論の み参加。	ジャクリーン・ベルント Jaqueline Berndt	横浜国立大学助教授（芸術学・視覚文化論）
	1963年ドイツに生まれる。フンボルト大学で美学博士号を取得。1994年から2001年まで立命館大学の助教授を務める。現在は横浜国立大学教育人間科学部助教授。メディアと芸術、サブカルチャー論、美術館論等の授業を担当する。	
	ジョナ・サルズ Jonah Salz	龍谷大学助教授（比較演劇論）
	1956年アメリカ合衆国に生まれる。1987年ニューヨーク大学で博士号（パフォーマンス研究）を取得。現在は龍谷大学国際文化学部教授。1981年に大蔵流狂言師茂山あきら氏とともに、能・狂言の決まりごとを使って西洋演劇を表現する能法劇団を設立した。関心は、狂言、ベケット、インターカルチャー演劇など。	
	マノジュ・L. シュレスタ Manoj L. Shrestha	甲南大学教授（経済戦略論・技術移転論）
	1959年ネパールに生まれる。1988年京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。その後、大阪府産業開発研究所、国際日本文化研究センターの来訪研究員を経て、2000年より甲南大学経営学部で教授を務める。これまでアジアにおける日系企業の技術移転戦略、日系企業の知的財産マネジメントの比較などをテーマに研究発表、論文の執筆を行っている。	
	テリー・E. マクドゥガル Terry E. MacDougall	スタンフォード日本センター所長・教授（政治学）
	1941年アメリカ合衆国に生まれる。1975年イェール大学で政治学博士号を取得。その後、ヴァージニア大学、ハーバード大学、ボストン大学で准教授を務める。知日派の育成と日米の学術交流を目的として京都に設立された、スタンフォード大学の海外キャンパスのひとつであるスタンフォード日本センター所長に1992年に就任、翌年からはスタンフォード大学の教授も務める。	
金 秀芝 Kim Soo-ji	関西国際センター日本語教育専門員（日本語教育）	
1964年韓国に生まれる。1987年誠信女子大学校日語・日文学科卒業。1990年名古屋大学文学研究科日本語言語文化専攻博士前期課程修了。1997年には大阪大学文学研究科日本語専攻後期博士課程を単位取得退学。同年より国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員に就任、現在に至る。これまで研究者日本語研修、大学院生日本語研修及び司書日本語研修を担当している。		
大坪一夫 Otsubo Kazuo	麗澤大学外国語学部教授（日本語教育）	
1936年福島県生まれ。1964年東京教育大学大学院文学研究科修士課程（言語学専攻）修了。筑波大学文学部言語学専攻、東北大学文学部教授（日本語教育講座）を歴任。現在は麗澤大学外国語学部日本語学専攻教授として日本語教育入門、日本語教育上級演習等の講座を担当している。日本語能力試験教材や日本語学習に関する著書・論文多数。		

写真で見る 日本人の生活

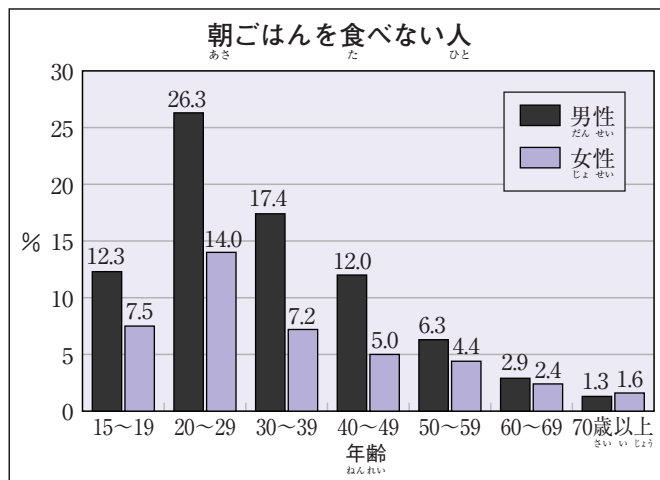
「おはよう」…朝起きてから

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は、「朝起きてから」に関する写真パネルを集めてみました。

朝ごはんを食べる



朝ごはん「だいたいいつもごはん(米)を食べる」という人は40%ぐらいです。「パンを食べることが多い」という人も40%ぐらいです。一方、晩ごはんには90%ぐらいの人が「ごはんが多い」と言っています。朝ごはんを食べない人もかなりいて、右のグラフに見るように、20代の男性だと26.3%の人が朝ごはんを食べません。でも、朝ごはんを食べない人は少しずつ減っているようです。新聞・雑誌・テレビなどで「朝ごはんを食べないと体に悪い」ということが言われてきたためかもしれません。



資料：厚生労働省 平成11年「国民栄養調査」
http://www.maff.go.jp/soshiki/kambou/joutai/onepoint/public/naiyo_2.htmlより

顔を洗う

かお あら



洗面所で顔を洗ったり、歯をみがいたりします。前は起きてすぐ歯をみがく人が多かったのですが、最近夫婦に対して行ったアンケート調査によると、妻の75%、夫の50%が「朝ごはんの後に歯をみがく」と答えています。朝の通勤・通学前にシャンプーする若い女性が増え、80年代後半には「朝シャン」が流行語にもなりましたが、最近「朝シャン」をする人はむしろ減って、若い人の中でも10%くらいだそうです。

ゴミを捨てる

す



ゴミを捨てるのは朝の大事な家事のひとつです。家の近くにある決められた場所に決められた時間までにごみを捨てに行きます。たとえば、燃えるごみは月曜日と木曜日、燃えないごみは火曜日などのように、捨てる曜日が決まっています。上の写真のように、ゴミ袋を持って近所の人と朝のあいさつをする風景はよく見かけます。また、夫が出勤するときにごみを捨ててからでかける場合も多いので、「ゴミ捨て」は「夫がよくする家事」だと言われています。

参考：溝江昌吾『数字で読む日本人2002』自由国民社
さんこう みぞえ しょうご すうじ まにほんじん じゆうこくみんしゃ

このコーナーの担当者：高 偉建、横山紀子（日本語国際センター専任講師）
たんとうしゃ こう いけん よこやまのりこ にほんごこくさい せんにとうし

授業のヒント

今回は、日本語の文字がきれいに書けるようになるためのかなの教え方を紹介します。

テーマ かなの書き方の指導

目的	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の文字を書くときのルールを知る 日本語のかなを書くときの注意点を知る
学習者のタイプ	<ul style="list-style-type: none"> 初級（入門）
クラスの数	<ul style="list-style-type: none"> 何人でも
準備するもの	<ul style="list-style-type: none"> 特になし（練習用シートは適宜）

◆日本語の文字の学習

日本語には、ひらがな・カタカナ・漢字の3種類の文字があります。ひらがなとカタカナは中国の漢字をもとに、日本でつくられたものです。そのため、この3種類の文字の書き方には共通するルールがあります。学習者が初めてかな（ひらがなとカタカナ）を学習するとき、このルールを身につければ、あとで漢字を学習するときにも役に立ちます。

文字の学習には、読みと書きがあります（漢字にはさらに意味があります）。読みの学習は文字の形と音を結びつけること、書きの学習は文字の形を正確に書き写せるようになることが目標です。この2つの学習は同時に行われることも少なくありませんが、連想法による文字カード教材（『Hiragana in 48minutes』など）を利用すると、短時間で読みだけを学習することができます。そのあとでゆっくり時間をかけて書きを学習することも効果的です。

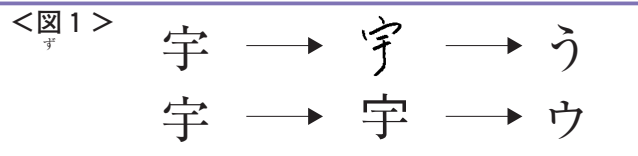
また、かなの学習では、ひらがなとカタカナのどちらを先にするか、という問題があります。一般的にはひらがなから学習することが多いと思いますが、海外では、学習者の名前や地名を表記する都合でカタカナから学習するケースもあるようです。また、曲線が多いひらがなよりも、直線的なカタカナのほうが書きやすいので、カタカナを先に学習したほうが良い、という意見もあります。ただ、やはりひらがなのほうが使用頻度が高いので、学習意欲の高い最初の段階で、先にひらがなを学習させ

るほうが多いようです。そして、カタカナは既習のひらがなと比較しながら導入して、次に漢字の導入としてカタカナを利用すると効率的です。

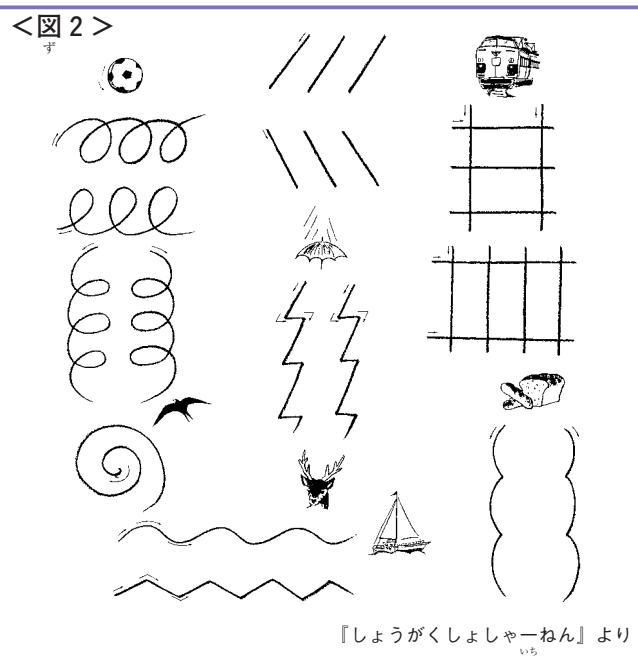
◆かなの書きの学習の準備

はじめに日本語の文字の書き方のルールを確認します。一番大切なルールは①上から下、②左から右ということです。これは線（専門的には「筆画」と言います）を書くときと、文字を組み立てるときの共通のルールです。もし、皆さんの国の文字のルールと違うときには特に注意が必要です。

次に、日本語の文字を書くときに必要ないろいろな線を書く練習をします。日本語のかなは漢字から作られたものですが、＜図1＞のようにひらがなは漢字全体をくずしたもののなので丸みをおびていて曲線が多く、カタカナは漢字の一部を使っているの全体に角張っていて直線的です。



ですから、このような線を取り出して、先に練習しておくといでしょう。＜図2＞は日本の小学校の「書写（かきかた）」の授業で使われる教材ですが、日本語の文字で使われるいろいろな線を、「電車の線路」や「ボール



『しょうがくしょしゃーねん』より

の動き」などのイメージで面白く練習できるように工夫されています（なお、この教材はすでに絶版になっていますので、これを参考にみなさんのアイデアで面白い教材を作ってください）。

◆かなの書きの導入

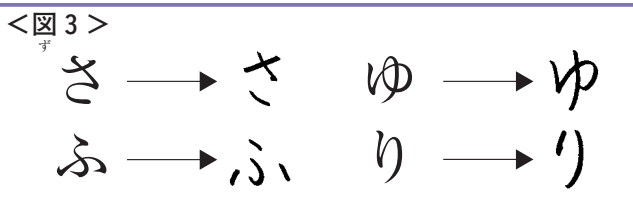
書きの学習の準備が終わったら、いよいよかなを導入します。1回に導入するかなは5～10字ぐらいが適当で、1字ずつ説明と練習をします。

はじめに、導入する字を教師が黒板に大きく書いて、その字を書くときの注意点を説明します。それから、教師はその字をなぞるように手を動かして、学習者にも手をあげて同じ動きをするようにしています（これを「空書」といいます）。このようにして、その字の形のイメージができてから、ノートに5回ぐらい書かせます。そうすれば正しい書き順も自然に身につきます。書きの練習では、1字ずつのマスをさらに4つに分けた黒板や練習シートを用意すると、字形のバランスがわかりやすいでしょう。

◆かなの書きの指導上の注意点

①印刷と手書きの文字の違い

日本語の印刷に使われる文字にはいろいろな字体があり、その中には以下のように手書きの文字とは字形がかなり違うものもあります。



このような印刷の文字は線を続けているものが多いですが、それは毛筆で書くときの勢いも取り入れた字体だからです。初めて日本語の文字を学習する学習者がまねをすると、すべて同じような線で書いてしまうので、不自然な字になってしまいます。

日本語の教材の中には「教科書体」という手書きに近い字体を使っているものもありますが、上の図の左のような字体の教材を使っている場合は注意してください。

②書き順

書き順は原則として前述の日本の文字の書き方のルールと同じです。ですから、かなの正しい書き順が身につけば、漢字の学習にも役に立ちます。また、いつも同じ書き順で書いたほうがきれいに書けるという意見もあり

ます。

③字形の許容範囲（どんな形がよいか）

手書きの文字には、上手な字、下手な字があると思いますが、一番大切なことは他の字と読み間違えられないようにすることです。ですから、字形を説明したり、学習者の書いた字を直すときにも、まずはそれを優先してください。

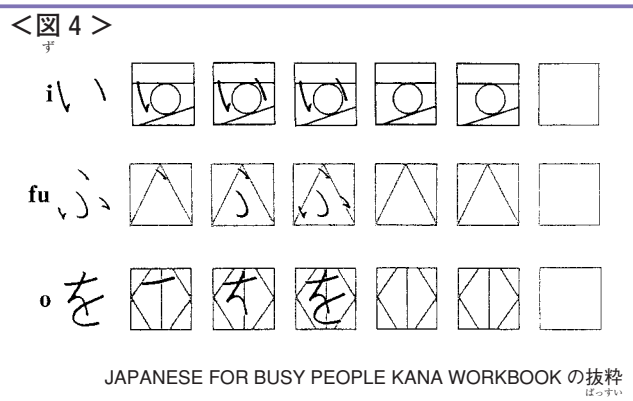
たとえばひらがなの「は」と「ほ」、「わ」と「ね」と「れ」など字形が似ている字は、違うところをていねいに教える必要があります。また、「い」と「こ」も書き順と傾きが変わると読み間違えられることがあります。

カタカナでは「シ」と「ツ」、「ソ」と「ン」のように、字形での区別が難しいものがありますが、線の方向や書き順を正しくするのがポイントです。

④字形の直し方

学習者が書いた字を直すときには、どこが違うのかがはっきりわかるように示すことが大切です。たとえば、線の方向が違うのか、字形のバランスが悪いのか、などです。それを示すためには、矢印（→）や「補助線」を使うと効果的です。

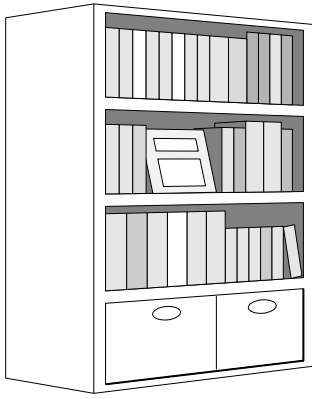
たとえば、「ふ」はバランスをとるのがとても難しい字ですが、字全体が三角形になるように書くときれいに書けます。このような一つ一つのかなの字形をイメージさせる教材もありますから、参考にするといいでしょう。



参考文献

- 国際交流基金日本語国際センター『日本語かな入門』凡人社（1978）
- 国際交流基金日本語国際センター『教師用日本語教育ハンドブックシリーズ②新表記』凡人社（1994）
- AJALT『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE KANA WORKBOOK』講談社インターナショナル（1996）
- 大阪書籍『しよがくしよしゃーねん』大阪書籍（1992）（絶版）

担当者が替わりました。小玉安恵、篠崎摂子（日本語国際センター専任講師）
読者の皆さんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。



本ばこ

—新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

暮らしの中の日本語が楽しく学べる

『日本語学習 CD-ROM クリック e コミック コボちゃん』

データ

1 企画・制作 林事務所 2 凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F / TEL. 03-3239-8673 FAX. 03-3238-9125 URL www.bonjinsha.com E-mail info@bonjinsha.com このCD-ROMの詳細についてはwww.click-e-comic.comのページをご覧ください)
3 2002年7月5日 4 4-89358-517-7 5 全100編 6 18,900円 7 付属冊子「活用アイデア集」

▽充実した教師サポート

本教材は、学習者が楽しく自習できる教材ですが、マンガを教室で活用したいと考えている

日本語教師にとっても、嬉しい教材といえるでしょう。

まず、機能面では、検索機能が充実しています。「語彙」「文型」「場面」で検索することができ、それぞれの教育現場に合ったマンガを選ぶことができます。

選んだマンガは、「しおり」の機能を使うと、利用したときにすぐ探すことができます。授業で利用する場合、ふきだしを「日本語」「英語」「ローマ字」「表示なし」に切り替えて印刷して配れるのも、嬉しい機能の一つです。

また、付属の冊子『活用アイデア集』には、CD-ROMには収録されていない「並べかえ」「コマぬき」「セリフぬき」などのアイデアや、教室で作品の内容を理解できなかったかどうかを確認する場合の質問例、内容をもとにディスカッションする場合の活用例などが収められています。全100編の作品は、コボちゃんつまり子供の視点から描かれたものと、他の家族つまり大人やペットの視点から描かれたものがありますので、教師が自分の学習者に合った作品を選びたい場合にも、この

付属冊子は心強い味方となるでしょう。



①並べかえ



②コマぬき



③セリフぬき

▽楽しく学ぶための工夫がいっぱい

『コボちゃん』は、20年以上にわたって新聞の朝刊に連載されている4コママンガです。その中の100編を、日本語学習のためのCD-ROM教材にしたものが、『クリック e コミック コボちゃん』です。コボちゃん一家のなにげない毎日の生活を通して、現代の日本事情や文化、そして日本人の考え方にふれることができます。

本教材には、CD-ROMの利点を生かした楽しく学ぶための工夫がたくさんあります。まず、ふきだしをクリックするとセリフの色が変わって音声がかかります。ふきだしの表示を「日本語」「英語」「ローマ字」「表示なし」の4種類に切り替えることもできます。また、各作品には、内容理解を助けるための情報が「しつもん」「ストーリー」「せつめい」「ごい」「レッスン」として盛り込まれていて、一つの作品をじっくり学ぶことができます。さらに、全100編のうち33編には、4コマの順番を考える①「並べかえ」、コマを抜いてそのコマで何が起きているかを考える②「コマぬき」、セリフの内容を考える③「セリフぬき」の三つのアクティビティーがあり、学習者の能動的な学習を支援しています。

ジェスチャーで学ぶ日本文化

まな に ほん ぶん かん

『ビデオ講座日本語 14 日本語のジェスチャー』

こう ぎ に ほん ごと に ほん ごと

データ

❶企画・構成 氏家研一 ❷東京書籍 (〒114-8524 東京都北区船堀2-17-1 TEL. 03-5390-7579 FAX.03-5390-7582 www.tokyo-shoseki.co.jp) ❸2002年7月1日 ❹20分 ❺9,240円

私たちのまわりの日常会話を観察してみると、多くの人が、言葉だけでなくさまざまなジェスチャーを使いながら話していることがわかります。ジェスチャーは文化によって異なる場合が少なくありませんから、初めて異文化のジェスチャーを見た時、その意味がわからなかったという経験を持つ人も多いでしょう。

ビデオ講座日本語シリーズはこれまで、自然な会話の中で、さまざまな文法を提示してきました。今回は日本人が日常会話の中で使うジェスチャーを、職場の自然な会話の中で紹介して

います。たとえば、さかづきを傾けて酒を飲むことを表すジェスチャー、指で丸を作ってお金を表すジェスチャー、頭をかいて申し訳ないという気持ちを表すジェスチャーなど、全部で19のジェスチャーが紹介されています。

ビデオでは、まず日本人が自然な会話の中でジェスチャーを使い、アメリカ人のワースさんがその意味を質問するという流れになっています。ジェスチャーだけをみてその意味をクラスで考えてみたり、ジェスチャーの意味を理解したあと、同じことを表すために自分の文化ではどんなジェスチャーを使っているか話し合ったりする利用方法も考えられるでしょう。もちろん、ことばと同じように、ジェスチャーも場面や性差、相手との関係などによって、いつでも使えるわけではありませんので、ビデオを見る時はその点に留意する必要があります。

なにげないジェスチャーに注意を払うことで、

非言語コミュニケーションが果たす役割に注目したり、異文化そして自文化への視点を養ったりするための好材料として活用できる教材です。



さかづきを傾けるジェスチャーは、酒を飲むことを表します。

「初級から中級への橋渡しシリーズ」第二弾

『文法が弱いあなたへ』

ぶん ぼう やわ

データ

❶足立章子、金田智子、鈴木有香、武田聡子 ❷凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F / TEL.03-3263-3959 FAX03-3238-9125 URL www.bonjinsha.com/index-j.html E-mail info@bonjinsha.com) ❸2002年5月30日 ❹4-89358-513-4 ❺B5判90ページ ❻1,260円 ❼別冊解答付き

本書は「初級が終わって、これから中級へ進もうとする人たちのために」に作られた問題集で、本誌44号本ばこで紹介した『漢字語彙が弱いあなたへ』に続く「初級から中級への橋渡しシリーズ」第二弾です。書名は『文法が弱い…』となっていますが、決して弱い人のためだけの問題集ではありません。中級に進む前に初級文型をもう一度整理するための問題集として、文法が強い人にもお勧めできる一冊です。

扱われている項目は、助詞、自動詞と他動詞、アスペクト補助動詞、授受動詞、形式名詞、モダリティ、条件、使役、受身、敬語など全部で39あり、どこからでも始めることができます。各課の構成は大きく2つに分けられます。まず、基本的文法知識の確認のために、動詞の活

用や意味用法を問う問題、類似表現との正しい使い分けを問う問題、絵を見て短い文を作ったり空欄に正しい語を入れたりする問題などがあります。そして、これらが理解できていたら、総仕上げとしてまとまった長さの読解文に挑戦です。初級文法の復習用問題集は今までもいろいろありましたが、各課にまとめの読解文があるのが本書の特徴であり、この部分が「初級から中級への橋渡し」の役割を果たしていると言えます。読解文までできれば理想的ですが、

時間がない人は、ここでは省略して前半の文法問題だけをやっていいでしょう。各ページには楽しい絵もあり、微妙な意味の違いなどをわかりやすく説明しています。

前述したように、本書は

もともとは初級文法の復習用として作られたものですが、初級の学習と同時に進めることもできます。先生が宿題用として使ってもいいですし、解答が別冊付録としてついていますので、意欲のある学習者が自習用として使うこともできます。



音を聞きながら、日本語の音声について学べる

『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』

データ

1鹿島央 2スリーエーネットワーク (〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 (松栄ビル) / TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195 URL www.3anet.co.jp 32002年5月31日 44-88319-231-8 5A5判194ページ 61,995円 7CD付き

みなさんには、学習者の発音を聞いて、どこか日本語母語話者の発音と違っているのに、何が違うか、どこを変えたらよいか、わからないという経験はありませんか。この本は、そんなときにヒントを与えてくれる本です。

各章で取り上げられているテーマは、第1章：単音（文節音）、第2章：音節、第3章：韻律レベル、第4章：音声教育です。

この本の大きな特色は、日本語の音声を実際の音を聞きながら学べるところです。

付属のCDを聞きながら本文を読み進み、実

際に口を動かしてさまざまな音を出してみると、それぞれの音が出て来る仕組みが確認できます。CDには学習者の母語や日本語の音声も入っていますが、その音がどうやって作られているのかも示されているので、学習者の音声の問題点をつかむこともできます。学習者の母語は、10言語以上にわたります。

この本のもう一つの特色は、日本語のリズムを構成する単位を「リズムユニット」と名づけ、語の長さを「拍感覚」ではなく、「リズムユニット」の配置として捉える新しい方法を提言しているところです。「リズムユニット」には、1拍分の単位である「リズムユニット1」と、2拍分の「リズムユニット2」があり、すべての語はこのユニットの組み合わせとして規定できると考えています。たとえば、「たべ・もの

(食べ物)」は「リズムユニット2+2」、「じ・かん(時間)」は「リズムユニット1+2」です。

この本を読むことにより、読者は日本語の音声の知識を得るだけでなく、自分自身の日本語の発音や音声の教育について振り返りきっかけも得られるでしょう。



音素	リズムユニット	拍	リズムユニット	拍
た	1	1拍	べ	1拍
も	2	2拍	の	2拍
ん	2	2拍		

P. 54

音素	リズムユニット	拍	リズムユニット	拍
じ	1	1拍	かん	2拍

P. 55

コンピュータ・ITの世界へ無理なく進める教材

『日本語教師のためのITリテラシー入門』

データ

1畑佐一味 2くろしお出版 (〒112-0002 東京都文京区小石川3-16-5 / TEL.03-5684-3389 FAX.03-5684-4762 URL member.nifty.ne.jp/kurosi/ 32002年6月17日 44-87424-246-4 5B5判86ページ 61,890円 7CD付き

本書は「コンピュータはちょっと」という日本語教師のために日本語を教える上での、

- ①具体的なコンピュータの利用方法
- ②IT (Information Technology) 活用の可能性に重点をおいています。

本書の目的としてあげられているのは次の二つです。

- 1) 教師一人一人のITリテラシーを高め、コンピュータに対する苦手意識を減らす
- 2) 仕事をする上で最低限必要な知識と技術をしごと身に付ける

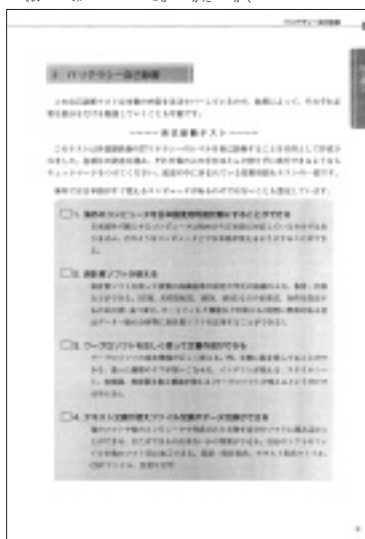
本書は、まず第1章でITリテラシーにつき、何ができて、何ができないのがチェックできる14項目の自己診断の質問があります。そして、海外でのコンピュータの日本語環境設定につい

て基本的なことを紹介しています。第2章から8章では具体的にワープロソフト、表計算ソフト、グラフィックソフトなどの使い方を実践的に学習していくことができます。例えば、比較的使い慣れているワープロソフトでも、基本的な機能の中にまだ利用価値の高いものがあるとして、インデント、タブ、スタイルシートの使い方を取り上げています。さらに表計算ソフトでは具体的な成績管理の例を見ながら使い方を学習できます。その他、電子メール、ワールドワイドウェブ (www) についての章もあり、自分に必要な章を選んで学習することもできます。各章の終わりには練習問題もついていて、各章の確認ができるよう工夫されています。

また、付属のCD-ROMを活用し

て、理解しにくい例題や練習問題の解答例を参照しながら自分で学習を進めることもできると思います。

わずか86ページですが、本書を読み終えるころにはコンピュータ・ITに少し自信がもてるようになるでしょう。



P. 3



P.25

P.17～19は以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

島田徳子、大隅敦子、押尾和美、木山登茂子、雄谷進 (執筆順) しまだのりこ おおすみあつこ おしおかずみ きやまともこ おおやすむ しつじゆん

授業に役立つホームページ

第4回 「であい」

— 中等教育向け異文化理解教材サイト —

今回は「であい：7人の高校生の素顔」というページ (http://www.tjf.or.jp/deai/) を紹介します。



図1 「であい」トップページ

「であい」は、海外で日本語を学習する中高生が、自分たちと同じ年頃の日本の高校生と擬似的に「出会う」ことによって、日本語と日本文化を学べるホームページです。学習者は、実在する7人の高校生について、日常生活の写真や説明文を題材にして話したり、作文を書いたりするなど、いろいろな形で日本語の学習ができます。それだけではなく、7人の一人ひとりの学校生活や部活動、友だちや家族との過ごし方、住んでいるところ、将来の夢などについて知り、身近に感じるようになります。そして自分と同じところや違うところを発見していくうちに、ものの見方にもいろいろあることに気がついて、自分や自分の周りの社会についても深く考えるようになるのです。このように「であい」を使うことで、日本文化についての決まった見方を学ぶのではなく、文化のさまざまな姿を知ることができます。

「であい」ホームページには、教材としての「写真、マイ・ストーリー、メッセージビデオ」と、それをうまく使うための「教師のためのサポート情報」があります。(図1)

「写真、マイ・ストーリー、メッセージビデオ」には、7人のプロフィールと一日の生活のようすがわか

る1,153枚の写真があります。この中には、家族、学校生活など、海外の日本語教育、とくに中等教育のシラバスにあるトピックで使える写真が集められています。また検索機能も付いていて、写真のタイトルや説明に入っていることばを入力して自由に写真を探すことができます。



図2 写真とキャプション「おべんとうを食べる」

1枚1枚の写真(図2)の下には「キャプション」(本人による写真の説明文)と「語彙リスト」、社会文化についての「ミニ事典」が付いています。例えばある高校生の昼食の写真に付いている「ミニ事典」の「弁当」をクリックすると、弁当についての説明と、「であい」で紹介されているほかの高校生の昼食の写真が全部見られます。

このほか、「メッセージビデオ」には7人が海外の高校生に話しかけるようが入っています。さらに「マイ・ストーリー」には、彼らが話した自分の生きたちや、今考えていることなどが、日本語と英語でくわしく書かれています。

「教師のためのサポート情報」には、「授業案」「参考資料集」「ミニ事典」「語彙リスト」があります。「授業案」には、制作者の国際文化フォーラムが用意した

授業案 (図3) とワークシート (図4) があります。
 また、各地の日本語教師の考えた教室活動の例や、日本語教科書に沿った授業案 (今のところ英語圏向けのみ) も出ています。ⁱⁱ これらの教室活動は、テーマや言語機能、教室活動の形式などから検索できるようになっていて、活動を考えるときにとても便利です。



図3 TJFによる活動案：進め方

「であい」ホームページにある授業案では、教材キットの中の写真シートを使って教師が説明したり、生徒に話し合わせたりする活動例が紹介されています。教材キットがなくても、次のように「であい」ホームページを使うことができます。

- (1) PCプロジェクターなどで生徒に写真を見せる。
- (2) 写真をカラー印刷してグループに1枚ずつ配る。
- (3) ワードで作った教材に写真を貼り付けて配る。
- (4) 生徒が自宅や図書館で「であい」ホームページを見ながら宿題をする。

「であい」ホームページは生徒にとっても使いやすくできているので、(4)の方法でいろいろな課題を出すことができます。たとえば「みちさん」という高校生の家族について家で調べてくる宿題を出しておき、次の授業では生徒が自分の家族の写真を教室に持ってきて、家族について話すという活動ができます。また読解・作文の場合、生徒にミニ事典の「おべんとう」のページを見せて、内容理解の質問を出し、生徒自身の昼食について書かせる活動もできます。難しいことばがあればリーディング チュウ太 (『日本語教育通信』44号で紹介) で調べながら読むこともできます。

学校に生徒の使えるコンピューターが少ないときは、全員ができるように一週間ぐらい時間を取るといいでしょう。また、クラスのための自分のホームページを持っている先生は、そこに課題を書いて、生徒に見せたい写真や「ミニ事典」のページへのリンクを付けておくと効果的です。

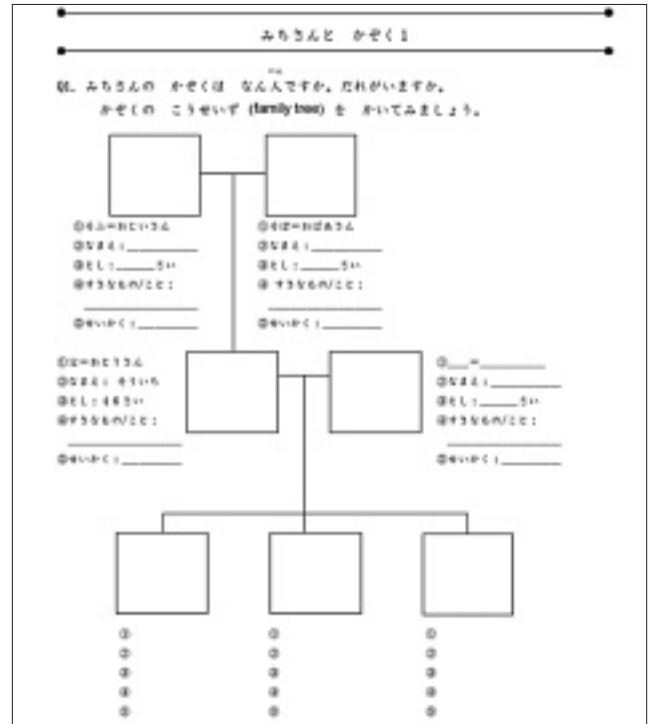


図4 TJFによる活動案：ワークシート

最後に、「であい」は「みんなの教材サイト」と同じく参加型のホームページです。使ったコメントや授業案、質問を国際文化フォーラムに送ることで、さらにいいページにしていけることができます。ⁱⁱⁱ

ⁱ (財)国際文化フォーラム(TJF)によって、元々はA3版の写真シートとブックレット、そして2枚のCD-ROMという構成の教材キット(非売品)として作られました。「であい」ホームページでは教材キットの内容のほとんどがダウンロードでき、さらにそれ以外の機能もあります。

ⁱⁱ 「であい」は元々英語圏の高校生向けに開発されたものなので、ホームページ全体が日本語と英語で書かれています。

ⁱⁱⁱ (財)国際文化フォーラム <http://www.tjf.or.jp/>
 Eメール：forum@tjf.or.jp ファックス：81-5-5322-5211

文法をやさしく

ぶん

ぼう

第4回 やりもらい(2) Nは※NにVてあげる

だい かい

学習段階：初級後半

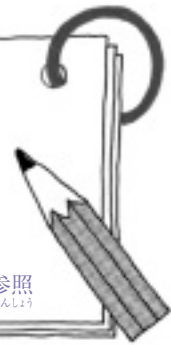
がくしゅうだん かい しょきゅうこう はん

キーワード：授受表現、ヴォイス、恩恵、人称制限、視点

じゅ じゅひょうげん おんけい にんしやうせいげん してん

※23ページ「3. 恩恵の受け手」参照

おんけい う て さんしやう



今回は「Vてあげる」を中心に、やりもらいの文型について考えてみましょう。

1. 「Vてあげる」が使われている例

2002年の夏、日本では一匹のアザラシのことが話題になりました。アザラシはもともと北極の近くの海に住む動物です。そのアザラシが横浜の川で見つかり、多くの人の関心を集めました。そして、見つかった川の名前にちなんで「タマちゃん」と呼ばれました。それでは、次の新聞の記事を見てください。

ぼくは、タマちゃんが川に流されたらあぶないし、かわいそうだと思っています。だから水族館かどこかで **a** 飼ってあげたらいいなと思っています。

(大阪市・小学五年生・全文)

お母さんとはなれてさびしいと思うけど、北極に帰るまでわたしたちが **b** 見守ってあげるから、がんばれ!!

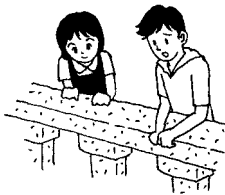
(千葉市・小学三年生・全文)

朝日小学生新聞 10月1日 p.1 朝小読者からのがみ欄
あさひしょうがくせいしんぶん がついついたち あさしょうどくしや らん
(下線は荒川・木山による)

飼う……to keep animals
見守る……タマちゃんのことを心配しながら見ていること

例文の二人は、アザラシのために人間ができることを

考えて新聞社に手紙を出しました。二人の意見は違いますが、アザラシにとってよいことを考えている点は同じです。それが、それぞれ「見守る」ことであり、「飼



う」ことだということです。「Vてあげる」は、動作を受けるものにとってよいことだと考えて行うときに使います。

しかし、同じ内容について述べる文でも公式の場面の報告では以下のように「Vてあげる」は使われません。

……アザラシの保護策などを検討する (中略) 横浜市などによる会議が26日開かれ、「アザラシは元気。当面は温かく見守る」と、確認した。異変が確認されれば、改めて会議を開き、検討する。

8月27日毎日新聞朝刊 p.30「タマちゃん? 当面保護せず」

(下線は荒川・木山による)

横浜市……地名 保護策……タマちゃんを守る方法
検討する……話し合って考える 当面……しばらく
〜と確認した……ことにした

このように同じ「見守る」という動詞でも、場面によって使い方が違います。子どもたちが「Vてあげる」を使ったのは、「タマちゃん」に対して親しみを感じているからです。「Vてあげる」は個人的な親近感を感じる相手に使える表現であると言えます。

家族の間でも次の例のように使われます。これはおじいさんが泣いている孫をなだめていることばです。

「これはおじいちゃんが悪かった。よしよし、絵本を

c 読んであげるからね……」

井上ひさし『浅草鳥越あずま床』新潮文庫 p.213 18

(下線は荒川・木山による)

よしよし……「いいよ」という意味で小さい子どもに使うことば

2. 「Vてあげる」の特徴

やりもらいの3つの表現はどれも話し手から見たできごとの表し方で、Vの動作を恩恵として表現します。「Vてもらう/Vてくれる」は、話し手が、恩恵の受け手の

気持ち、つまり喜びや感謝を表します。「Vてあげる」は、話し手が、恩恵の与え手の気持ち、つまり「相手が好き

ただし、「Vてあげる」を会話の中で使う際は注意が必要です。なぜなら、会話の相手が恩恵の受け手である場合、話し手が聞き手の感謝を待っているように聞こえるからです。とくに〈1〉〈2〉の例では、聞き手が目上なので失礼になります。

- 〈1〉社員：課長、雨ですから駅まで車で送ってあげます。
 - 〈2〉のように謙譲語を使うと失礼になりません。
 - 〈2〉社員：社長、雨ですから駅まで車で送ります。
 - 〈3〉学生：先生、黒板を消してあげましょうか。
- 先生を喜ばせたいときでも、目上の先生には「Vてあげる」を使わず、〈4〉のように言います。
- 〈4〉学生：先生、黒板を消しましょうか。
- ただし〈5〉のように目上の先生が使うことはあります。
- 〈5〉学生：このことばの意味がわかりませんが。
- 先生：じゃ、大きい辞書を貸してあげましょう。

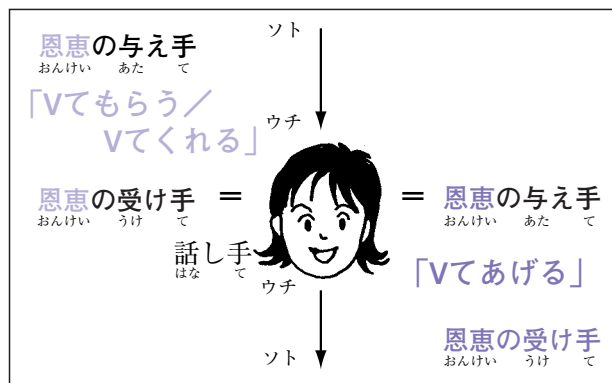
「Vてあげる」が使われるのはどんな場面か、さらに例を見てみましょう。

- 〈6〉社員A：雨だね。駅まで車で送ってあげようか？
 - 社員B：ありがとう。でも、今夜は残業なんだ。
 - 〈7〉母：あら、おしょうゆがないわ。困ったな。
 - 子：ぼくが買ってきてあげるよ。
- タマちゃんの例a、bも、おじいさんの例〈c〉もそうでしたが、〈6〉、〈7〉も恩恵の与え手と受け手とが、家族や友だちのような親しい関係です。恩恵といっても、相手が気楽に断れるようなことで、日常のくだけた場面で使うほうが使いやすいでしょ。

ところで次の例をどう思いますか。何だか変ですね。

- 〈8〉友だちが（私に）辞書を貸してあげました。（?）
- 〈9〉山田さんが（あなたに）車を貸してあげたの？（?）
- 〈8〉、〈9〉は次のように言えば、よく意味がわかります。
- 〈10〉友だちが辞書を貸してくれました。
- 〈11〉山田さんに車を貸してもらったの？

話し手=恩恵の受け手の場合や、話し手に近い立場の人（聞き手や話し手の家族など）=恩恵の受け手になっている場合は、「Vてくれる」や「Vてもらう」を使います。



上の図を見て、恩恵の与え手→受け手の方向が逆にならないように気をつけてください。

3. 恩恵の受け手

ここで、もう一度タマちゃんの例aをくわしくを見てみましょう。

- 〈12〉タマちゃんを飼ってあげる。（☞a）
- 「飼う」という動作の対象はタマちゃん、そのことで幸せになるのもタマちゃんです。〈13〉も同じ関係です。
- 〈13〉友だちを家に呼んであげる。
- 〈14〉父の車を洗ってあげる。
- 〈15〉赤ちゃんのミルクを温めてあげる。
- 〈16〉孫に絵本を読んであげる。（☞c）
- 〈17〉赤ちゃんに歌を歌ってあげる。

〈14〉、〈15〉では動作の対象は車やミルク、恩恵の受け手は車の持ち主である父や、ミルクを飲む赤ちゃんになっています。

〈16〉、〈17〉の動作の対象は絵本や歌ですが、恩恵の受け手は孫や赤ちゃんになります。

〈12-17〉では、下線部の「を」「の」「に」などの助詞で恩恵の受け手がわかります。

しかし、実際には場面や前後の関係で誰がうれしいのかがわかるので、これらは省略されることが多くなります（a-c、〈5-7〉）。

参考文献

文化外国語専門学校（1990）『文化初級日本語Ⅱ 教師用手引書』p.63
 平井悦子、三輪さち子（2000）『みんなの日本語初級Ⅰ 文型練習帳』p.128 スリーエーネットワーク
 前号の参考文献も見てください。
 （前号の訂正：
 誤：『文化中級日本語Ⅱ』 正：『文化初級日本語Ⅱ』）

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。

担当者：荒川みどり（日本語国際センター客員講師）、木山登茂子（日本語国際センター専任講師）

NEWS

ニュース

2002年度日本語能力試験の応募者数

昨年12月1日(日)に、2002年度の日本語能力試験が、国際交流基金、(財)日本国際教育協会の共催で実施されました。

この試験は、日本国内外において、原則として日本語を母語としない人を対象に、習得した日本語の能力を客観的に測定し、その能力を認定することを目的としています。1984年から実施されており、今回で19回目を迎えました。

今回は国外38の国・地域の89都市、日本国内6地域で実施され、総計286,168人(昨年度比約6%増)の応募者がありました。

各級の応募者数については別表のとおりです。

級別	2002年度 応募者数(人)	2001年度 応募者数(人)	伸び率 前年度比	
外 国	1級	54,928	48,317	13.7%
	2級	67,302	60,257	11.7%
	3級	67,951	65,579	3.6%
	4級	40,757	41,808	-2.5%
	小計	230,938	215,961	6.9%
国 内	1級	32,818	35,847	-8.4%
	2級	12,536	10,382	20.7%
	3級	7,097	5,879	20.7%
	4級	2,779	2,783	-0.1%
	小計	55,230	54,891	0.6%
合 計	286,168	270,852	5.7%	

日本語教育論集『世界の日本語教育』 第14号 投稿論文の募集

国際交流基金日本語国際センターでは、外国語あるいは第二言語としての日本語教育に関心のある方々のための学術論文集『世界の日本語教育』第14号を2004年6月に刊行する予定です。これに掲載する論文を世界に向けて一般公募いたします。「投稿案内」及び「執筆基準」を2月半ばより、当センターのウェブサイト上で公開いたします。また、紙媒体での投稿案内等をご希望の方は、当センター情報交流課(連絡先は本ページ右下囲みに記載)までご請求ください。皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしています。

1. 資格:

国籍、性別、年齢、所属は問いません。日本語を母語としない方からの投稿を特に歓迎します。使

用言語は、日本語あるいは英語です。

2. 内容:

次の何れかの分野で未発表のものに限ります。投稿者の居住する国以外においても有益となりうるような内容を望みます。

(1) 日本語教育(日本語応用言語学) 教育方法論、カリキュラム・デザイン、教材、能力測定・評価、第一及び第二言語習得、外国語教授法、文化背景などで日本語教育の理論と実践に関する学術論文

(2) 日本語研究及び関連分野

日本語学、社会言語学、心理言語学、対照言語学に関する学術論文(日本語教育にとって有用な論考を歓迎します。)

3. 採用予定本数: 15本程度

4. 論文の分量:

(1) 日本語原稿: 約20,000字以内。(ワープロ原稿の場合は、A4用紙1頁42字×33行で15枚相当。手書き原稿の場合は、400字詰め原稿用紙50枚相当。)

(2) 英語原稿: 約10,000語以内。(A4用紙35行で、25枚相当。)

* (1)、(2)とも、図表、注、参考文献などを含まず。

5. 論文提出締切日: 2003年7月31日(必着)

日本語教育シラバス・ガイドライン シリーズ(日本語版)の公開

当センターでは、現在7カ国9種の初中等教育課程用日本語教育シラバス・ガイドラインの日本語版をホームページ上で公開しています。

シラバス・ガイドラインは、当該国の日本語(外国語)教育の方針を知る上で貴重な資料であり、かねて『日本語教育国別情報』において、国(州)別に主要なシラバス(試験シラバスを含む)やガイドラインの一覧を紹介してまいりました。しかし、これらには翻訳がないものが多かったため、各々の言語を理解できる方以外には詳細を知ることが難しく、以前から翻訳出版を望む声が多くありませんでした。

このたび、制定や改定など最近大きな動きのあった国々のシラバス・ガイドラインにつき、関係者のご協力を得て日本語版を刊行・公開することが実現しました。これによって、海外の日本語教育のさまざまな取組みの実態が一層明らかになることでしょうか。刊行物は教育機関配布用に限ったので、個人の閲覧希望など幅広く対応するため、著作権者の許可を得て、インターネット上で全文公開及びダウンロードを可能にいたしました。

当センターとしては、今回の試みが日本語教育に携わる多くの方々のお役に立てればと願っています。また、内容の適宜更新はいうにおよばず、将来的には他の国々のシラバス・ガイドラインについても翻訳を検討してまいりたいと考えておりますので、ご意見、ご要望などございましたら、どうぞお寄せください。

アドレス: http://www.jpfi.go.jp/j/urawa/world/kunibetsu/syllabus/sy_tra.html

現在ご覧いただけるシラバス・ガイドラインは、以下のとおりです。

- 韓国 1. 外国語教育課程(Ⅱ)
2. 外国語系列高等学校選択科目教育課程
3. 中学校裁量活動の選択科目教育課程

中国 4. 全日制義務教育日本語課程標準

インドネシア 5. 専門高校カリキュラム

ニュージーランド

6-1. ニュージーランド日本語カリキュラム

6-2. ニュージーランド日本語カリキュラム

(サポートマテリアル)

英国 7. 現代外国語: 英国ナショナルカリキュラム

ドイツ 8. アビトゥア試験統一基準「日本語科目」

米国 9-1. 21世紀の外国語学習スタンダード

「外国語学習スタンダード」

9-2. 21世紀の外国語学習スタンダード

「日本語学習スタンダード」

海外向けビデオ教材 「日本語教育用NHKテレビ番組集」

国際交流基金では、NHK番組を利用した日本語教育用ビデオ教材を制作しました。このビデオ教材は、全世界の当基金事務所および事務所のない国については日本大使館に配布してあります。この教材は海外でのみ使用することができ、日本国内では使用することができません。教材概要は次のとおりです。

1. 制作の目的

海外の日本語学習者、特に若い世代の日本への関心と現代日本の理解を高めるため、実際の生活で使われている日本語を学習者に提供することを目的に、(財)NHKインターナショナルと共同して制作しました。

2. 教材の構成

ビデオ3巻: 1. ドラマ「六番目の小夜子」

2. アニメ「あすきちゃん」

3. 「みんなのうた」

ビデオ1及び2にはそれぞれ、①字幕なし映像、②英語又は西語いずれかの字幕を追加した映像、の2篇を収録。

教材解説書: 教師向け指導用参考書で、日本語と英語の対訳。監修は長谷川恒雄慶應義塾大学教授、執筆は土井真美群馬大学助教授と保坂敏子慶應義塾大学非常勤講師。

3. ご使用の方法

この教材は日本語教育用として海外で使用することができます。全世界の当基金海外事務所(事務所のない国については日本大使館)を窓口として日本語教育機関に対して貸し出されます。著作権の制限があるため販売は行っていません。

なお、日本国内でこの教材を使用することはできませんが、参考・研究目的のため当日本語国際センター図書館等での閲覧は可能です。お問い合わせ先: 日本語国際センター制作事業課

048-834-1183

編集部から

日本語も国際的になってきました。今回表紙エッセイを書いてくださったゾベティさんのように母語ではない日本語で小説や詩を書く人々が、賞をとったり、ベストセラー作品を世に出したりしています。

外国の方々が、日本語で表現することの魅力とは何なのでしょう? 思うに、ゾベティさんも指摘されていますが、視覚的な面白さは、大きな理由の一つなのかもしれません。扱う文字が多いことは学習者にとっては大きな壁ですが、見方を変えれば、多様な素材(=文字)があるのは、表現できる事象の幅が広いということでもあります。同じ音を表すにしても、ひらがな、カタカナ、漢字のどれを使うかで、ニュアンス(=伝達内容)が変わってくるのです。例えば、「綺麗な手」と書けば「マニキュアをした華やかな手」を想像しますが、「きれいな手」と書くと「セッケンで洗った清潔な手」の印象を受けます(ただし、文脈に左右される部分もあるので、必ずそうだとは言いきれません)。

こうした文字表現の豊かさが、より端的にわかるのは、名詞の世界です。漢字それぞれが持つ音・調読みを無視して、漢字の意味やイメージを表す言葉を、その名詞の読みとしてルビをふることはよく行なわれています。例えば、「空翔馬」と書いて「ベガサス」、「小夜曲」で「セレナーデ」などが挙げられます。人名についても、出生届けを役所に出す際、漢字の読み方について法規制がないので、「小春」と書いて「うらら(春によくつく形容詞「うららかな」より転じた女性名)」などと読み仮名をつけて登録をすることが可能です。最近日本でも増えてきている国際結婚で生まれた子ども達は、両親それぞれの文化を混ぜ合わせた名前を持つ例が多いですが、「鈴」で「ベル」、「標」で「マーク」、「美海」で「マリリン」、「冬夢」あるいは「柊」で「ノエル」など、なかなか考えるなど感心してしまいます。

こうしてみると、日本語の名づけの世界は、日本語学習者にとっても創造力を刺激する面白い遊びになるかもしれませんね。読者の皆さんも、何か良い名前を思いついたら、「日本語教育通信」編集担当まで、是非お知らせください。お待ちしております。(tt)

『日本語教育通信』 第45号

2003年1月発行

編集・発行 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課

〒336-0002 埼玉県さいたま市北浦和5-6-36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 Chome, Saitama-shi,

Saitama 336-0002, Japan)

TEL. 048-834-1184 FAX. 048-830-1588

E-Mail jfnctt@jpfi.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Japan Association for Cultural Exchange

(ACE Japan)

(表紙イラスト: 村井宗二) 古紙100%再生紙使用